



わたしの恋愛事情

なすがまま

わたしの恋愛事情

わたしには14歳年上の彼がいる。

彼とはだいたい、週いちのペースで会う。

会うのは決まって夕方の6時、待ち合わせ場所も毎回同じ場所。

そしてふたりで食事に行く。

食事のあとは、バーへと足を運ぶのが常であるが、時々ラブホテルへと直行することもある。

わたしとしては、バーなんかへ行ったりするほうが良いのだけれど……。

ラブホテルへ直行するのは、ひとつだけ利点もある。

だから、総合的にみるとどちらが良いか、考えどころなのだ。

まあ、バーなんかへと寄り道をしたところで、その日の夜は必ずラブホテルに行き、一泊するのだけれど……。

翌日はゆっくり起きて、ラブホテルを出る。

シティーホテルなんかで遅めの朝食を取り、そのあと一緒に映画をみたり、ウィンドショッピングを楽しむことも。

だからランチも遅めの時間となる。

お茶を飲み、だいたいいつも4時ごろに、じゃあまたと言って別れる。

彼とは一年に一度、一週間ほどかけてドライブ旅行に出かける。

温泉めぐり秘境の旅といったところかな。

場所は彼が決める。

1カ月前にはその場所を彼が言い、周辺施設でどこを見たいか考えといてと言ってくれる。

わたしはネットで調べて、候補地を探す。

彼の愛車はポルシェである。

また新車に変えたいが、わたしは興味が無い。

997だったのが、991でしかも、911だって、何で数字が戻るのだろう？

ちんぷんかんぷん。

7代目って言ったのだから、7台目と勘違いしたから、不機嫌になった。

彼は高速道路の走行中は、話しかけられるのを嫌う。

愛車の乗り心地を、全身で感じていたいらしい。

彼は運転しているうちに、機嫌が直る。

わたしは運転している彼の真剣な横顔を、助手席から盗み見る。

それだけで、ワクワクする。

わたしは、高速道路を走る時の、地面スレスレを猛スピードで走るあの感じが、堪らなく好き。

彼のもう一つの趣味は、カメラである。

最近、凄く上等の一眼レフを買った。

だから、デートの際には、写真を撮りまくっている。

風景は勿論だが、わたしもよくカメラに収まる。

そして次のデートの時に、プリントした写真をくれる。

一週間の旅行となると、手渡される写真も数十枚ほどになる。

わたしの友達は、わたしのことを羨む。

彼にはそこそこの収入がある。

だって彼は開業医なのだから。

だから彼は、デートの際には高級フレンチの店を予約している。

彼は高級ワインを好む。

だから予約時には高級ワインの予約もしている。

わたしもアルコールは強い方、だからワインも好き。

けれど市内にあるフレンチレストランは行きつくしたとかで、次は料亭しようと言う。

自分の病院のホームページに、来店記録を付録として載せているから、変えなければならないらしい。

高級ワインなら価格が半端じゃないモノもある。

彼が鼻眞にしている店はこぞって取り寄せては薦める。

彼はその値段には糸目は付けない。

この前は40万もするワインを飲んだ。

彼はワインなら、感想が好き放題に書けるから良いのだと言う。

それが日本食なら書きづらいだろうと。

わたしはアルコールが呑めて、美味しい食事があれば、どっちでも良い。

わたしの友達は、呆れてもいる。

そうやって、食事と共にワインだの、その後のバーだの行き、アルコールを過剰に摂取した日は、ラブホテルへ行ってもセックスには至らないことも多くなった。

そうすると、わたしはデートをしただけになってしまう。

セックスをしないと、高級料理と高級酒が身体に入っただけで終わる。

彼が若かった時は、少々多めにアルコールを摂取しても、ラブホテルでは身体を合わせたのに……。

食事のあと、ラブホテルへ直行するのは、デートコースとしては貧しいけれど、確実にわたしは少しリッチになれる。

わたしは彼が好きだから、彼の要求も厭わない。吐き気がしても頑張れる。

だからお願い、射精して。

わたしを無収入で帰さないで。

ね、

大好きなあなた。

年に一度の遠出は良い。

一週間分のお手当を、先に言ってくれるから。

早く来ないかなあ？

今年の遠出。

大好きなあなたと一緒に遠出。

待ち遠しいー。